



令和元年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【上溝地区】

令和2年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要 (申請時)			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 高齢者の安全・安心な暮らしを支える事業実行委員会	高齢者の安全・安心な暮らしを支える事業	少子高齢化、核家族化の伴い、高齢者、特に一人暮らしや引きこもりがちな高齢者、身近に親しい人がいない人、更には高齢者のみの世帯も増える傾向にある。高齢者の中には時に、日常生活を送るうえで、緊急事態や不自由な状態に陥るときもあり、そのときの対応に苦慮している事例があると聞いている。 平成30年度に事業を立ち上げ、上溝地区全体で高齢者を支える仕組みづくりとして「高齢者相談つなぎの家」のプレート、キャッチフレーズの作成及び掲示者を対象に委嘱状交付・基調講演などの式典を開催した。プレート掲示は約150枚となっているが、地区内において掲示数、周知含めて十分な状態ではない。	高齢者の相談受付窓口になる家を選定し、高齢者の悩み事の解決の一助とし、高齢者にやさしいまちづくりを目指す。地区住民が高齢者に対して常に関心を持ち続ける環境を醸成し、高齢者が安心して暮らせる地域づくりの一環として行うものである。	自治会長や民生委員、老人会役員、地区社協役員の家、地域内店舗などに看板(プレート)を掲げ、高齢者の相談受付窓口になってもらい、民生委員や地域包括支援センターにつなぎ、高齢者の悩みの解決を図る仕組みづくり。 ・地区内への看板(プレート)掲示及びリーフレット配布の拡大 ・高齢者の見守りなどに関する意識啓発を目的とした講演会の開催 ・対象となる高齢者(75歳以上を目安)への周知の拡大	R1.9.4	574,000	574,000	574,000
2 上溝地区社協子育てマップ編集委員会	上溝地区子育てマップ作成事業	上溝地区には、子育てに関する情報を掲載した「子育てマップ」がなかったため、平成30年度に事業を立ち上げ、4000部作成してまちづくりセンターや公民館、地域住民の交流の家などに配架するとともに、地区担当保健師、小学校、幼稚園、保育園など関係各所に配布したところ大変好評であった。 既に地区の住民から増刷の要望もあるが、マップの内容についても改善し、子育て環境の更なる向上を図る必要がある。	子育て世代が、子どもの安全かつ安心で、健やかな成長を育むため、子育てに特化したマップを作成する。 地域の医院、公共施設はもとより、各種相談機関や子どもの急病などへの対応情報なども掲載することで、日々の子育ての不安解消を図る。	マップの提示内容 子どもに関する地域資源(幼稚園、保育園、学校、児童クラブ等)の情報、広域避難場所(災害時への情報提供)、相談機関情報、病・医院の情報(電話番号・主な診療科目)、休日・夜間の急病への情報、子どもの病気の早期発見のための観察ポイント、AED設置場所情報の提示 事業実施に当たっては、地区社協、民児協、保育園、こどもセンターなどが幅広く作成に携わり、意見を取りいれる。 完成したマップは、子育て広場や保育園、幼稚園、小学校(新入生)、地区内の公共施設や事業所などを通して、対象者に広く配布する。 (作成部数は4,000部を予定)	R1.10.31	188,000	188,000	188,000
3 上溝を学ぶ会	上溝地区ガイドウォーク事業	平成30年度に中央区主催の「ぶらさんぽ」にスタッフとして協力し、家族連れから高齢者まで多くの参加者が事業を楽しむ姿を目の当たりにした。 これにより、上溝地区の魅力が再認識するとともに、その魅力を広く知ってもらうための事業を継続的に実施していく必要があると実感した。	若い世代も含めた地域住民とのつながりをつくることができると期待されるこの事業を、ガイドウォークというかたちで実施することで、地域活性化の一助としたい。 ・地区内の史跡や現在注目されているスポットを巡ることにより、地域住民の地域に対する興味を広げる。	地区内の史跡や現在注目されているスポットを案内する「ガイドウォーク」を実施する。 ガイドウォークで使用する資料として、ガイドマップを作成し、印刷する。	R1.11.20	540,000	540,000	540,000
4 上溝地区社協サロン活動部会	健康スポレクひろば事業	・高齢化の進行に伴い、健康寿命の延伸が求められている。 ・地域活動への参加者の増加を図るため、会員が楽しんで参加できる事業の実施が求められている。	「レクリエーションゲーム」や「ニュースポーツ」などを指導できる人材を育成することにより、普段あまり運動に親しんでいない高齢者の健康寿命の延伸や、地域活動の活性化に寄与する。	30名を対象に全5回の「健康スポレクひろば」を開催し、人材の育成を図る。 開催期間 令和2年1月24日(金)から3月6日(金) 開催時間 午前10時からの約2時間 開催場所 上溝公民館	R1.11.20	108,000	93,000	93,000
5 相模原交通安全協会上溝支部	歩行中の交通事故撲滅対策事業	中央区の中でも上溝地区は交通事故件数が多く発生しており、信号機のない横断歩道での事故も多い。 特に、児童においては左右の安全確認不十分のまま横断歩道に飛び出したり、また、高齢者にいたっては車が近づいても渡れるという思い込みによる判断ミスから事故にあうケースが多くみられる。	信号機のない横断歩道の手前において、歩行者が必ず一時停止をして左右確認するように、歩行者の目を引く絵柄付きの啓発用路面シートを貼り、交通事故の撲滅を目指す。	・啓発用路面シートを、地区内約70か所の信号機のない横断歩道手前に貼る。貼付作業にあたっては、交通安全母の会と上溝鼓笛隊にも協力してもらい、作業についても子供たちへの啓発の場とする。 ・相模原警察署の協力をいただき、シートには「交通安全協会上溝支部・相模原警察署」と表示する。また、相模原市中央区役所に後援をさせていただく。 ・シートの大きさは、縦24cm×横30cm。	R2.2.14	130,553	130,000	130,000

団体名	事業等の名称	事業の概要(申請時)			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
6 上溝地区自治会連 合会	ALL上溝推進事業	上溝地区では、地域振興イベントの開催にあたって地区内の総力をあげて取り組んでおり、令和元年度からは、従来は上溝商店街振興組合が中心となって開催されていた「溝のサンマまつり」にも、自治会連合会をはじめとした地区内の団体が関わるようになった。また、昨年10月の台風19号に伴う甚大な被害があった際には、地区内の団体が総ぐるみになって募金活動を展開したが、一般の皆さんに上溝地区として取り組んでいる活動であることが分かりにくいとの指摘を受けた。	地区内の団体が総ぐるみになり、四季を通じた地域振興イベントの開催などの町おこしに取り組むことにより、上溝地区だけでなく、区や市のブランドイメージの向上とシビックプライドの高揚に寄与するとともに、交流人口と定住人口の増加を促す。 【協力団体】上溝地区まちづくり会議を構成する各団体等	地域活性化イベントの開催・参加にあたっては、自治会連合会を中心に、上溝の総力をあげて”ALL上溝”の精神で取り組む意識を醸成し、地域一丸となって上溝地区、中央区、相模原市の活性化に取り組んでいく。 また、自治会への加入促進はもとより、地域活動の担い手の増加に向けて各種イベントを”ALL上溝”で楽しく盛り上げるため、子どもから高齢者まで参加できる交流イベントに必要な備品・消耗品を用意し、活用していく。 4月 市民さくらまつり(市・区への貢献) 10月 溝のサンマまつり、上溝レクリエーション大会・上溝地区ふるさとまつり 11月 上溝ふくしまつり、お芋フェスティバル 3月 上溝さくらまつり	R2.2.14	550,220	457,000	457,000
7 小田急多摩線延伸・ 上溝駅開設推進協 議会	小田急多摩線延伸・上 溝駅開設推進事業	上溝地区では、小田急多摩線延伸事業を将来にわたる上溝のまちづくりの核となる事業と考えており、地区まちづくり懇談会においてもテーマとして取り上げている。 同事業は、平成28年4月の国の交通政策審議会において意義あるプロジェクトと位置づけられたが、実現に向けては費用負担や採算性など多くの課題が指摘されていることから、早期実現に向けた地区住民の意識の高揚を図るため、小田急多摩線延伸・上溝駅開設推進協議会が中心となって促進活動を推進している。	小田急多摩線延伸計画を上溝まで早期に実現させるため、地区住民が一体となり延伸推進活動を積極的に行い、また同時に近未来の上溝地区を希望にあふれ、賑わいのある、住みよいまちに創生することを目的とする。	上溝地区を希望にあふれ、賑わいのある、住みよいまちに創生するため、自治会や商店街など地域が一体となり小田急多摩線延伸計画の周知と広報活動等に積極的に取り組む。 具体的には、上溝駅開設の推進に必要な関係機関への要望・陳情活動や調査研究・情報収集活動、「のぼり旗」等を活用した広報宣伝活動等を実施する。	R2.2.14	68,200	34,000	34,000
- 相模原市自治会連 合会中央区連絡会	中央区振り込め詐欺対 策事業 9地区合同事業	高齢者をねらった振り込め詐欺被害が全国的な課題となる中、中央区内でも被害が多発している。平成30年度には、相模原市自治会連合会中央区連絡会として、振り込め詐欺防止ステッカーによる高齢者向けの詐欺対策事業を実施したところだが、令和元年も被害件数は増加しており、危機的な状況にある。最近では、警察官や銀行、市役所の職員等に成りすまして、暗証番号を聞き出し、キャッシュカードをだまし取る被害も多発していることから、地域の防犯意識の高揚や犯罪を寄せ付けない住環境の創出が求められる。	被害の中心となっている高齢者に向けた啓発だけでなく、詐欺被害防止という目線で周り的高齢者を気にかける地域づくりのため、防犯啓発プレートを作成・掲出し、周知・啓発する。	・防犯啓発プレートの作成 サイズ:縦30cm×横23cm(角)、厚み0.5mm 材質:PVC(白)、PETコート 数量:4,000枚 ・防犯啓発プレートの掲出 自治会員宅など、地区内で見やすい場所に掲出する(掲出場所は各地区の判断によるが、電柱への掲出は決して行わない)。	R2.1.27	1,778,000	1,778,000	1,778,000
						2,158,973	2,016,000	2,016,000

9地区合同事業以外の合計額